

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270800396
法人名	有限会社 グループホーム高野の里
事業所名	有限会社 グループホーム高野の里
所在地 (電話番号)	長崎県松浦市志佐町高野免631-4 (電話)0956-72-0568

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年 1月 16 日	評価確定日	平成 21年 3月 30日

【情報提供票より】(平成21年 1月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築(改築)
建物構造	木造り	
	1階建ての	1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150円	昼食 250円
	夕食	300円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	3名		
年齢	平均 88歳	最低	72歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊地病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム『高野の里』は、田園風景が広がり、木々の揺らめきや鳥のさえずりが、ゆっくりとした時の流れを感じさせてくれる緑豊かな山間いにある。民家を改装して建てられたホームであり、中庭には運営者自ら手作りのウッドデッキがあり、木の温もりが落ち着いた雰囲気を与えてくれている。ケアの面では、全職員がスケジュールにとらわれ過ぎず、ご利用者とゆっくり向き合いながら1日1日を大切に『待つケア』を実践している。山間いにあるホームであるため、周囲に民家や施設が少なく、地域の方との日常的な交流が難しい状況の中、一昨年から自治会への加入やホーム主催での夏祭りを開催するなど、運営者や管理者を中心として、全職員がホーム側から地域との交流を促進するための姿勢をもち続けている。その努力の結果、地域の方が花や野菜を差し入れて下さったりと、地域との交流も持てるようになってきている。ホームには看護師が3名もおられるため、ご利用者の健康管理や異常の早期発見などの対応も迅速に行なわれている。開設4年を経過し、日々の暮らしも充実してきている。職員は日常的な地域とのつながりを深め、地域に根ざしたホーム作りを念頭に置き、地域の一員としてのホームをめざしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の自己評価・外部評価の結果を踏まえて、職員間で改善策を検討してきた。取り組みの代表的なこととして、理念の共有に関しては、地域密着としての理念に近づけるよう、地域との関わりをさらに深めていくために管理者が日々職員に伝え、会議の場で話し合いを続けてきた。また地域交流に向けて、運営者や管理者が地域の方々との話し合いを続けている。また、職員の補充等を行ない、ご利用者の日常的な外出支援や職員の働きやすい環境を作っていく取り組みも行われた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が各職員に、自己評価票の担当を決める形で取り組みを開始した。運営者も自己評価に前向きな姿勢で、運営者が記入したものを管理者に渡し、それをすべて合わせて職員全員で評価や検討を行なった。『地域に根ざしたケアが必要であること、大切であること』など、地域との関わりに対する意識がさらに強く持てるようになったと全職員が感じている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>なかなか参加メンバーを選定することが難しく、運営推進会議が実施できていない状況である。運営者自らが運営者の友人や知人、区長などへ、会議への参加のお願いを行なっている段階である。今後は民生委員や市の職員にも、会議への出席をお願いする予定である。また運営者や管理者が、近隣のグループホームに、開催にあたってのアドバイスや情報収集を行なっている段階でもある。より地域に根ざしたケア『地域密着』を目指し、運営推進会議の開催に向けて前向きに取り組みを進めている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現状の暮らしぶりや健康状態、職員の異動などに関してはホームに来訪されるご家族に対して丁寧に説明することで安心していただけるようにしている。ご家族へは、来訪時に意見や要望を尋ねている。遠方ではなかなか来訪が難しいご家族に対しては電話で連絡し、できる限り多くの意見をいただくような取り組みを行なっている。今後、個々のご家族が知りたいと思われる情報をお伝えできるように全職員で協力しながら『ホーム便り』を作成することを検討している。また、家族会の組織作りや運営推進会議を開催することで、ご家族から意見や要望などを引き出せる場の確保にも努力していきたいと考えている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2年前より自治会に加入したことにより、近所の方々に回覧板を回す機会などが増えている。またご利用者と道を歩いていると、ご近所の方々から野菜をいただくなど、ご近所への付き合いも深まってきている。子供会から演芸会の案内状をいただき、ご利用者を公民館へお連れしたり、一昨年から開催しているホーム主催の夏祭りにも、運営者自らが地域の50世帯に案内状を配布したこともあり、参加者も増えてきた。地域との交流のあり方を常に考え、ホーム側から地域の方々へ積極的にアプローチしながら、地域交流がより深まっていくような取り組みを続けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者、前任の管理者を中心として作られた理念をもとに、さらに現職員全員でより良い理念となるために検討を重ね、『ご利用者の人権を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、皆様と一緒に、ゆっくり、楽しく、安心して』という理念を作り上げた。住み慣れた地域の中でその人らしく地域との関係性を継続していくことなどの、地域密着に向けての思いが込められた理念となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご利用者お1人お1人にゆっくりのんびりとした生活を送っていただくように、管理者は日々の現場や会議の中で、理念に基づいて『丁寧な声かけ、言葉遣い、傾聴の仕方等』具体的に職員にアドバイスを行なっている。月1回の会議の場では、職員全員で理念について考える機会をもっている。日々のケアの場では、職員間で『ゆっくり』と言う理念の言葉をお互いに確認しながら実践している。ご利用者の人権を尊重した態度、姿勢等を理解し、深めていくための取り組みを続けていきたいと管理者や職員は日々考えている。	○	運営者や管理者は、理念の1つ1つの意味を見つめなおし、1人1人の職員が、個々のケアの現場で、実践できているかを全職員で評価していきたいと考えている。また、ケアの中で良い点や改善すべき点を出し合い、話し合うことで、今後さらに理念に即したケアが実践され、よりご利用者主体のケアに近づいていけることを期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2年前より自治会に加入したことにより、回覧板を回す機会が増えている。またご利用者と道を歩いていると、ご近所の方々から野菜を差し入れて下さるなど、ご近所との付き合いも深まってきている。子供会から演芸会の案内状をいただき、ご利用者を公民館へお連れしたり、一昨年から開催しているホーム主催の夏祭りにも、運営者自らが地域の50世帯に案内状を配布したこともあり、参加者も増えつつある。全職員で地域との連携のあり方や、ホームに足を運んでいただく取り組みを考え続けている。	○	山間いの上の方にあるホームであるため、地域の方との日常的な交流が難しい状況の中、ホーム主催での夏祭りを開催するなど、ホーム側から地域の方々との交流を行なっている。そのため、徐々に地域活動への参加や、地域の方々のホームに対する理解も深まりつつある。これまでの取り組みを活かして、ホーム側から地域の方々へのアプローチを継続され、地域交流がより深まっていくことを期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が、各職員に自己評価票の担当を決める形で取り組み、管理者が意見を1つにまとめた。運営者も評価に前向きな姿勢で、運営者が記入したものを管理者に渡し、それをすべて合わせて職員全員で評価、検討を行った。『地域に根ざしたケアが必要であること、大切であること』『地域の方々へホームへ足を運んでいただくことの大切さ』など、地域との関わりに対する意識がさらに強く持てるようになったと全職員が感じている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催に向けて、運営者自らが運営者の友人や知人、区長などへ、会議への参加のお願いを行なっている段階である。今後は民生委員や市の職員にも会議への出席をお願いする予定である。また、近隣のグループホームに開催までのアドバイスや情報収集をしている段階でもある。なかなか参加メンバーを選定することが難しく、実施できていない状況であるが、運営推進会議の開催に向けて前向きに取り組んでいる。	○	運営推進会議を開催することで、地域により深く関わっていけるような情報交換が行なわれる可能性も高く、より多くの方々からご意見をいただける場でもあるため、一日でも早く会議が開催されることを期待したい。また、近隣の同業者に意見を伺ったり、市の職員と連携を図りながら、運営推進会議の実施に向けた取り組みがなされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回ほど、主に管理者が、更新申請や入退所の手続きのために、市の窓口を訪問している。また、運営者が運営推進会議の開催に向けての相談のために、ご担当者と話す機会を作っている。また、ホームでの生活において、帰宅願望などや徘徊など、対応困難なケースをご家族とともに地域包括支援センターへ相談に伺い、ケア方法のアドバイスをいただいたこともある。	○	今後も、運営者や管理者を中心として、市の担当者に対して運営推進会議開催のための助言をいただき、1日でも早く開催したいというホーム側の思いを積極的に伝えていきたいと考えられている。今後の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理に関しては毎月の支払い時にご家族へ報告を行なっている。現状の暮らしぶりや健康状態、職員の異動などに関してはホームに訪れるご家族に対して、丁寧に説明することで安心していただけるようにしている。来訪されることが少ないご家族もおられるため、ご家族全員に定期的に報告しているとはいえない状況であり、全ご家族へ定期的に報告していくため、『ホーム便り』の作成を検討している。	○	全職員で協力しながら『ホーム便り』を作成し、まずは年2回程、発行することが検討されている。個々のご家族がどのような情報を知りたいと思われているかを把握し、個々に応じた報告、連絡が定期的に行なわれていることを期待したい。また、毎月の請求書送付時や受診後の必要な報告の時などに、日々の暮らしぶりや健康状態の報告を含めた、お手紙なども一緒に同封されてみてはいかがだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご家族は遠慮しているのではないだろうか」との思いもあり、「何か要望がありましたら何でも言ってくださいね」と、常に管理者や職員はご家族に対して声かけをするようにしている。来訪されることが多いご家族や近所にお住まいのご家族(道端でばったりお会いした際に聞くなど)に対しては日頃から交流が図れているが、遠方にお住まいのご家族などに対しては意見を表せる機会が少ない現状となっている。	○	意見箱は設置しているが、今後はさらに、ご家族の来訪時や電話の際に、意見や要望を伝えるように職員が声かけを行ない、特に遠方のご家族には、頻りに電話をかけるなど、ご家族の思いを汲み取っていきわいと考えている。また、家族会の組織作りや運営推進会議を開催することで、ご家族が意見や要望などを引き出せる場の確保にも努力していきたいと考えている。ご利用者、ご家族ともに安心してホームと関わっていくことができ、より快適な生活が送れるようになることを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者と管理者は、馴染みの関係の大切さを理解しており、職員に長く働いてほしいと考えている。そのため職員の意見や要望を、月1回の会議の場で聞いており、年に2、3回の食事会なども行ない、親睦を深めている。休みの希望には極力応じながら、管理者は勤務表の作成を行なっている。管理者は職場の雰囲気作りを大切にしているため、職員のチームワークも良く、離職者も少ない状況である。職員交代に伴い、ご利用者へのダメージを防ぐ取り組みとして、新規職員への十分な引継ぎを行なうなど配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、ホームの質の向上には、職員の質の向上が不可欠であると考えており、職員育成についての必要性を理解している。そのため外部研修への参加は有給扱いにされており、研修への参加を積極的に支援している。管理者や職員は、県や市等主催の研修会や市の居宅介護支援事業所の研修会に積極的に参加しており、介護福祉士の資格取得に取り組んでいる職員の支援なども行なっている。また、毎月、会議の際に『食中毒について』などの伝達研修も行われており、職員のスキルアップを図っている。運営者は今後もさらに外部研修に参加する機会を増やしていきたいと考えている。	○	運営者は、今後もご利用者が安心、満足できる介護をめざして、職員の育成を続けていきたいと考えている。以前より外部研修の参加も増えてきており、今後は管理者を中心に個々の職員の能力、経験などに応じた育成計画を作成していきたいと考えている。育成計画の作成と共に、職員の質の向上につながる取り組みが行なわれていくことを期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流の必要性を認識しており、職員を外部研修などへ参加させるなどの取り組みを行なっている。同業者との交流という点においては、管理者が近隣のグループホームへ見学に行くなどの個人レベルでの交流は行われているが、職員間での相互訪問などはまだ実現できていない状況である。	○	運営推進会議の開催に向けて、他のグループホームの方々と情報交換をすることから進め、さらに今後はケア面での情報交換をしていくことなどに展開されていかれても良いのではないだろうか。また、運営者は、現在開催されていない市のグループホーム協議会に対しても、開催に向けて積極的にアプローチし、交流、連携作りに取り組んでいきたいと考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス提供前には、管理者がご自宅へ訪問し、ご家族やご本人と面接を行っている。また、担当の介護支援専門員から、ご本人のサービス情報などを得て、デイサービスや入院先の病院などを訪問することもある。ご利用前にはホームを見学していただき、ご本人には、ご家族からご利用に関する説明をしていただくことで、できる限り本人が納得した上でご利用していただくようになっている。納得されていない場合には、入居後、ご家族にも頻繁にホームへ足を運んでいただく期間を設けたり、管理者が慣れるまで何度もご自宅へお連れしたりするなど、徐々にホームに馴染んでいただけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者には、冠婚葬祭など地元の風習や料理の仕方、味付けの仕方など教えていただいている。日々の生活の中では料理の下ごしらえなどを手伝っていただいている。職員が仕事を終え、帰り際にご利用者から、「お疲れさん、気をつけてお帰り」などの労いの言葉をかけていただくことが多い。職員はこの瞬間に、ホームで仕事を続けていることの喜びや、やりがいを感じている。職員は、より多くのことをご利用者から教えていただけるような場面を積極的に作っており、何気ない会話を大切にしながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ご利用者との日々の会話の中から、さりげなく行きたいところや食べたい物などの思いや意向を把握するように努めている。ドライブ中、景色の良いところなどでは思いを良く語って下さるため、なるべくドライブにお連れして思いを聞くようにしている。言葉で表現できない、把握が困難なご利用者も、お1人お1人と向き合い、声かけしたり、ご利用者とともに行動することで、できる限り思いを汲み取るとともに、ご家族からも話を伺い、少しでもお気持ちを把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成前に、ご本人、ご家族の希望、要望を開き、情報収集をし、毎月の会議で全職員で話し合いながら介護計画を作成している。ご利用者の生活歴や要望など、ホーム独自のアセスメント様式を活用しながら記入しており、必要に応じて、かかりつけ医や地域包括支援センターの職員の意見をいただくこともある。文書は、誰が見ても分かりやすい、柔らかな言葉で表現されている。管理者は行事への参加や買い物、地域の方々との交流など、『地域で暮らす視点』を介護計画の中に盛り込んでいきたいと考えている。	○	今後は『地域で暮らす』という視点も介護計画に盛り込んでいながら、更にご利用者主体の介護計画の内容となっていくことを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングにおいて、ご利用者に“新たな問題はみられないか、身体状況に変化はないか、短期目標について、できている項目とできていない項目はどれか”など職員で話し合いが行われている。変化が見られた場合や更新の時期には、設定された時期の前でも、ご利用者やご家族の意見を伺い、計画の見直しが行われている。更に、6か月に1回は、独自のADL表を基に、再アセスメント表の作成も行われている。	○	状態が安定しているご利用者の場合、毎月見直しは行われているが、計画書の作成が6か月ごとになっている。職員間で話し合われ、状態に変化がない場合は、長期目標の期間(6か月)まで、その計画書が継続されて使用されている。市の担当者より、指摘を頂いたことはないということだが、短期目標がおおむね3ヶ月と設定されていることより、期間の訂正も必要と思われる。3ヶ月に1回は、ご利用者、ご家族からのご意見も伺い、新たな気づきの確認など行ってみられてはいいかであろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の希望に応じて、適宜、職員の勤務状況やご家族の受け入れに応じて、自宅にお連れしたり、昔からよく行かれていたお寺へお連れしたりしている。通院の介助も基本的に職員が行っている。医療連携体制は十分に取れており、ご利用者が入院されると職員がお見舞いに行つて状態観察を行ない、入院先の医師や看護師から情報収集をし、早期退院に向けた取り組みに努めている。看護師がホームに勤務していることで、ご利用者の健康管理や異常の早期発見、早期対応を図ることができており、『長くホームで暮らしたい』というご利用者やご家族の願いに対応することができている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者全員、希望される医療機関にて受療されている。職員の中に看護師の資格を有しているものが3名いるため、異常の早期発見には十分に気を配っている。医療機関との連携も24時間体制の対応ができるようになってきている。基本的に職員が通院介助を行なっているが、受診の内容や時間帯によってはご家族に依頼する場合もある。受診後の状態については、ご家族から報告をいただき、ご利用者の状態の把握に努めている。受診後、ご利用者に状態の変化があった場合は速やかに報告し、変化がない場合でも来訪時やお電話にて、ご家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係者の方々との重度化や終末期に向けたホームの方針の共有までには至っていない。ホームとしても、看護師を3名配置しており、終末期対応についての必要性は十分に感じているが、夜間帯の急変時の対応やご家族からの協力も必要であること等から、事業所としての終末期ケアに対する体制が整っていない状況にある。また、ご本人やご家族に対して、個々の意向の把握はできていない。その時々々の病状に応じて、医療機関と連携している。ホーム内で医療処置が必要になった場合でも、ホーム内に看護師が配置されているため、対応できるものであれば行っていきたいと考えている。	○	今後、ホームとしての終末期ケアの実施に向けての取り組みは、ご利用者、ご家族の意向と合わせて、主治医や協力医療機関の医師などの連携や協力が必要となってくる。往診していただける医師の確保なども必要になることが考えられることから、まずは各関係者の方々と終末期に向けた方針を共有していくための話し合いの場が持てるようになることを期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者が馴染まれておられるため、ご家族の了承もいただき、「～ちゃん」付けでお呼びすることもあるが、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。誘導の声かけや介助時はご利用者の自尊心や羞恥心に配慮し、さりげなく行なっている。個人情報に関しては申し送りはご利用者や来訪者に聞こえないようにしている。また、書類等は人の目に触れないようにし、玄関に面会簿を置くのではなく個別の用紙で来訪者を確認し、箱に入れて保管し情報の漏洩防止に取り組まれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外来受診の帰りに、ご利用者の希望に応じて買い物にお連れする等、外出や買い物についてはできる限り対応している。日々の生活リズムが取れるよう、無理強いはせず、ご本人の選択に任せ、趣味や特技を活かしながら、ご本人のペースで生活していただけるよう柔軟に対応するように努めている。希望を表現されないご利用者には、これまでの生活歴やご家族からの情報をもとに、興味のあるような話題を持ち出し、その表情や行動などからご利用者の思いを汲み取り、できる限りその人らしく生活できるように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にも、献立を考えていただき、下ごしらえ、配膳、片付け、テーブル拭きなど、お1人お1人のお力を発揮していただいている。葱やキュウリ、茄子やピーマンなど菜園で採れた新鮮な食材や旬の食材を使用しており、郷土食でもある『押し寿司』なども採り入れている。食事中は、職員も同じテーブルを囲み、楽しい話題を提供し、一緒に食事をするようにしている。時にはレストランで外食をしたり、お正月にはおせち料理を注文するなど、楽しい食事ができるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は午後の週2回を基本としているが、ご本人の希望により、週3回や週4回入浴されているご利用者もおられる。入浴を好まれないご利用者には、『お風呂に入って気持ちがよかった』ということを他のご利用者から声かけていただくなどの工夫を行ない、入浴していただけることもある。希望により姉妹と一緒に入浴していただいたり、入浴の順番を決めるのに、全ご利用者でくじ引きを行なうなど、平等、公平にゆっくり入浴でき、入浴を楽しんでいただくように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人やご家族から伺った生活歴や趣味などの情報をもとに、お力を発揮していただくために、料理のお手伝いやトイレトペーパー交換、テレビをつける係、洗濯物をたたむなどの役割を持っていただいている。また、農家をされていたご利用者には庭の草取りなどをしていただいている。カラオケ、テレビの体操、縫い物、塗り絵、風船バレーなど楽しみごとができるように積極的に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用される前から習慣とされていた、美容室やスーパー、野菜の直売所などへの外出は継続して行なっていた。また毎月の行事でも、ドライブを兼ねて『道の駅』にお連れしたり、外食や花見、散歩などを行なっている。クリスマスや敬老の日などの特別な日には、ご利用者、職員全員でタクシーを利用し、ご家族も含め外食を楽しんでいる。気分転換のために、戸外で過ごしていただく機会をできる限り多く作り、個別の外出支援ができるように支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、夜の防犯上の施錠以外の時間帯(朝6時から夜7時まで)は玄関は開放されており、自由に入力できる状態にしている。ご利用者の安全確認については、職員が業務する場所や向きを工夫したり、職員同士が業務中に声かけを行ない、徹底した見守りを行なっている。ご利用者1人での外出時のために、近所の方々にも外出時の連絡の協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、平成19年に夜間想定避難訓練を、平成20年に昼間想定避難訓練を実施している。平成20年春にスプリンクラーや火災報知器などの設置のため、消防署の方々との連携もあり、通報訓練や初期消火の指導を受ける機会もあった。今後は昼間想定、夜間想定共に避難訓練を定期的実施し、さらに地域の方々、ご利用者に参加していただくことを検討している。災害に備えた備品の準備もこれから進めていく予定である。	○	今後は、避難訓練の際に、地域の方々やご利用者に参加していただくことや地域の方々へ、災害時の協力依頼を行なっていくことに取り組んでいきたいと考えている。また、災害に備えた備品の準備もこれから進めていく予定であるため、保存食や水、また救急道具などの必要物品をはじめ、何をどのくらい準備すればよいのか、全職員や消防署の方々とも連携して検討されていくか、に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせて、肉を魚にするなど食材を変更したり、味付けを変えたり、盛り付けを工夫するなどご利用者からの要望に応じた対応を行なっている。ご利用者の嗜好の把握もできており、カレーが嫌いな方には肉じゃがへ変更するなど、好き嫌いにも対応できている。また、嚥下機能低下のご利用者には個別の調理がされている。活動量や体格、年齢等、ご利用者に応じて、1日1400～1600kcalを目安に職員がカロリー計算をしながら献立を作成しており、他の施設の管理栄養士に定期的にチェックしてもらっており、糖尿病の方の血糖値も安定している。食事量、水分量ともに把握し、毎日記録している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が活けられており、季節感を感じさせてくれる。また、リビングにはご利用者全員が輪になって腰掛けることができるソファが配置されている。民家を改装して建てられており、段差はなく、安全面に配慮されている。職員の希望で、中庭には運営者自ら手作りのウッドデッキがあり、木の温かさが落ち着いた雰囲気を出している。掃除に使用する消毒薬は臭いの強くないものに変更したり、換気に努めたり、よしずを利用しながら強い日差しを防ぐよう工夫されている。ご家族が来訪された際のご意見で「落ち着いた雰囲気ですね…。あんまり自宅(家)とは変わらないですね」とのお言葉もいただいている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の窓から、四季折々の山の風景を眺めることができる。お1人お1人の部屋には、ベッドと床頭台はもともホームで備え付けているが、他テーブルや座椅子、衣類ボックス、ポータブルトイレ、タンス、寝具などは、自宅で使用されていた馴染みのものを持ってきていただいている。ご本人やご家族の意見を聞きながら、ご本人が落ち着き、使いやすいように家具等の設置場所を考慮している。ご家族にも協力していただき、家族がいつも身近にいるという思いを持っていただくためにも、アルバムを持ってきていただいている。		